「日野町魅力化プロジェクト」 同行報告

―鳥の目、虫の目、魚の目で地域を見る―

2017年9月14日(木)　政策科学研究会

一般財団法人日本総合研究所

調査研究本部　生活創造研究部

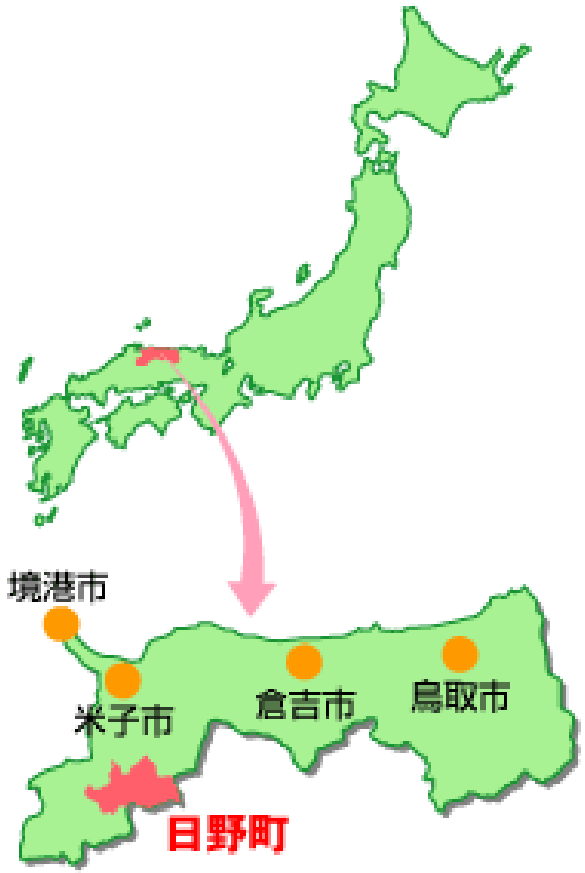
高野　祥代

CONTENTS

１．鳥取県日野町の概要
２．本プロジェクトの経緯
３．プロジェクト実施概要
４．レビュー(概要)と今後の展望

1．鳥取県日野町の概要

平成26年度の
出生者数は**11人**、
死亡者数は**56人**、
自然増減だけでも**ー45人**
全体では、71人減



人　口：3,278人
（高齢化率　47%、1,540人）
※およそ2人に1人が65歳以上、
3.5人に1人が75歳以上

世帯数：1,279世帯

産　業：農業従事者が最も多く（17.5%）、
次いで「医療・福祉」（15.2%）、
「卸売業・小売業」（12.0%）。

交　通：JR伯備線が通っており、町内に
根雨・黒坂・上菅の3駅がある。
米子駅から特急やくもで約24分。

2000年には、鳥取県西部地震で被災。
住宅の倒壊、損壊など物理的な被害は顕著で
あったが、死者は0人だった。

出典：日野町HP、平成27年国勢調査

2. 経緯

●昨年、黒田秀雄先生（当時 東京富士大教授、現 JRI特任研究員）が、
鳥取県日野町での地域おこし協力隊から相談を受け、
学生によるまち歩きプロジェクトを実施した。

●プロジェクトの目的：高齢化と過疎で悩む日野町をフィールドに、
大学生がまち歩きや体験等を通じて、まちの課題や魅力を探ること。

●2016年8月の5日間、東京富士大、鳥取大、島根大の学生（留学生含む12名）
が参加。3テーマ（グループ）に分かれて町の魅力や課題を調べた。

●最終日に報告会を開催。発表概要は以下のとおり。

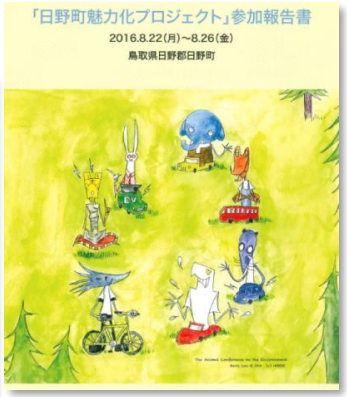
☑ 産業：主要産業である農業の6次産業化、農商工連携等

☑ 観光：観光資源の発掘、体験型ツーリズム、インバウンド等

☑ 生活：子育て環境、ICTインフラ整備等

「日野町魅力化プロジェクト」(2016年～)のポイント

- 行政・地域（窓口：企画政策課、地域おこし協力隊、協力：町議会、地域住民（ホストファミリー等））と、都市と地方の学生（東京富士大・鳥取大・島根大）がコラボ
- 日野町でのまち歩きや体験を通じて、地域課題やまちの魅力を探り、学生から事業化アイデアを提案（→行政による施策化）
- まち歩きは年1回（2016年～、夏季休暇中）実施、毎年、検討テーマを設定



2. 経緯

●活動成果は、日野町や議会、地域住民からの評価も高く、
　また地元紙のほか、鳥取県のホームページ等で紹介された。
　日野町魅力化プロジェクトは、次年度も継続的に実施することとなった。
●インターネット環境の改善、新たな観光スポットとしての「ひまわり迷路」は、
　行政と地域おこし協力隊により実現された。

（昨年度）メディアでの紹介

（21） 広域 2016年（平成28年）9月2日 金曜日

中海圏域版

ネット整備や子育て推進

東京などの大学生12人 日野町の課題発表

日野町内にホームステイして町の魅力や課題について提言する学生たち

小津監督トークシ

熊本震災復興チャリティ

鳥取県HP「日野ごよみ」
http://www.pref.tottori.lg.jp/item/1040595.htm#moduleid302220

2016年8月26日

首都圏からの大学生たちが「日野町魅力化発表会」でプレゼンを行いました。

８月２６日（金）、東京富士大学の学生１０名、島根大学の学生１名の計１１名の大学生が、「日野町魅力化発表会」でプレゼンテーションを行いました。

この取り組みは、日野町の魅力発掘に若者を活用し、首都圏の若者に直に中山間地域の課題に触れてもらい、外部の目から見た日野町の課題とその対策を提言してもらうことを目的に、地域おこし協力隊の皆さんが企画したものです。

この企画には、東京富士大学、島根大学、鳥取大学からの参加があり、大学生たちは、産業、経済、生活の３チームに分かれて３軒の町内の民家にホームステイし、農業体験や取材などを行い、色々な提言を行いました。

３．実施概要
日野町魅力化プロジェクト
―大学生田舎ホームステイ―

●実施主体

主催：日野町魅力化プロジェクト実行委員会 ／ 後援：日野町 ／
協力：一般財団法人日本総合研究所、一般社団法人IGOコミュニケーションズ／
コーディネータ：黒田秀雄先生

●参加者 12名

東京富士大学(10名)、島根大学(1名)、日本総合研究所(1名)
※ **産業、生活、観光**の３チームに分かれて行動・発表

●内容

都市部の大学生が日野町にホームステイし、町民と交流しながら
過ごし、地域の魅力や課題を考え、最終日に提案する。

●日程

８月21日(月)～25日(金) ４泊５日

３．実施概要
日野町魅力化プロジェクト
―大学生田舎ホームステイ―

●**プログラム**

①日野町の観光について知る

②日野町の農業について知る

③日野町の生活について知る

④最終日、学生によるプレゼンテーション

プログラム①
日野町の観光について知る

☜金持（かもち）神社

日野町の観光スポット。県内・県外から年間約23万人が訪れる。

ひまわり迷路☞

昨年のプロジェクトでの学生の提案を
地域おこし協力隊が実現。
8月12日～20日の9日間で、528人が来場。

☜オシドリ（※写真は日野町HPより）
秋から春先にかけて日野川へ飛来。多いときには1,000羽以上の姿を観察小屋から間近に見ることができる。
日野町の鳥、鳥取県の鳥に指定されている。

日野川ラフティング☞
4・5・10月限定で、地元のボランティア団体が実施。今回は、学生のために特別に実施していただいた。

プログラム②
日野町の農業について知る

☜農業体験

炎天下の中、秋キャベツの苗を植える。初めて鍬や耕運機を使う。

農作物出荷

生産者の名前つきの野菜が、日野町から倉敷へ運ばれる。

プログラム③
日野町での生活について知る

ローカルフード
大山おこわ

ホストファミリー
との夕食

交通の便が悪い地域の
お年寄りの生活を支える
移動販売車

【町民の方々との交流会】
景山町長、山口副町長はじめ
町役場の方々、子供たちも参加。
町長から学生たちへ期待のメッセージが伝えられる。

交流会では、地元の猟師の方が
鹿肉の刺身、イノシシ肉(バーベキュー用)を差し入れてくださった。

プログラム④
プレゼンテーション

●3チームから約20分ずつで、

来場者（町役場、町民等）に向け、プレゼンテーションを行う。

産業チーム

ホームページを改善する

どの端末で見ても
最初に開いたときに,
この町の知ってほしい
情報をページの一番見
やすい上の方に置く

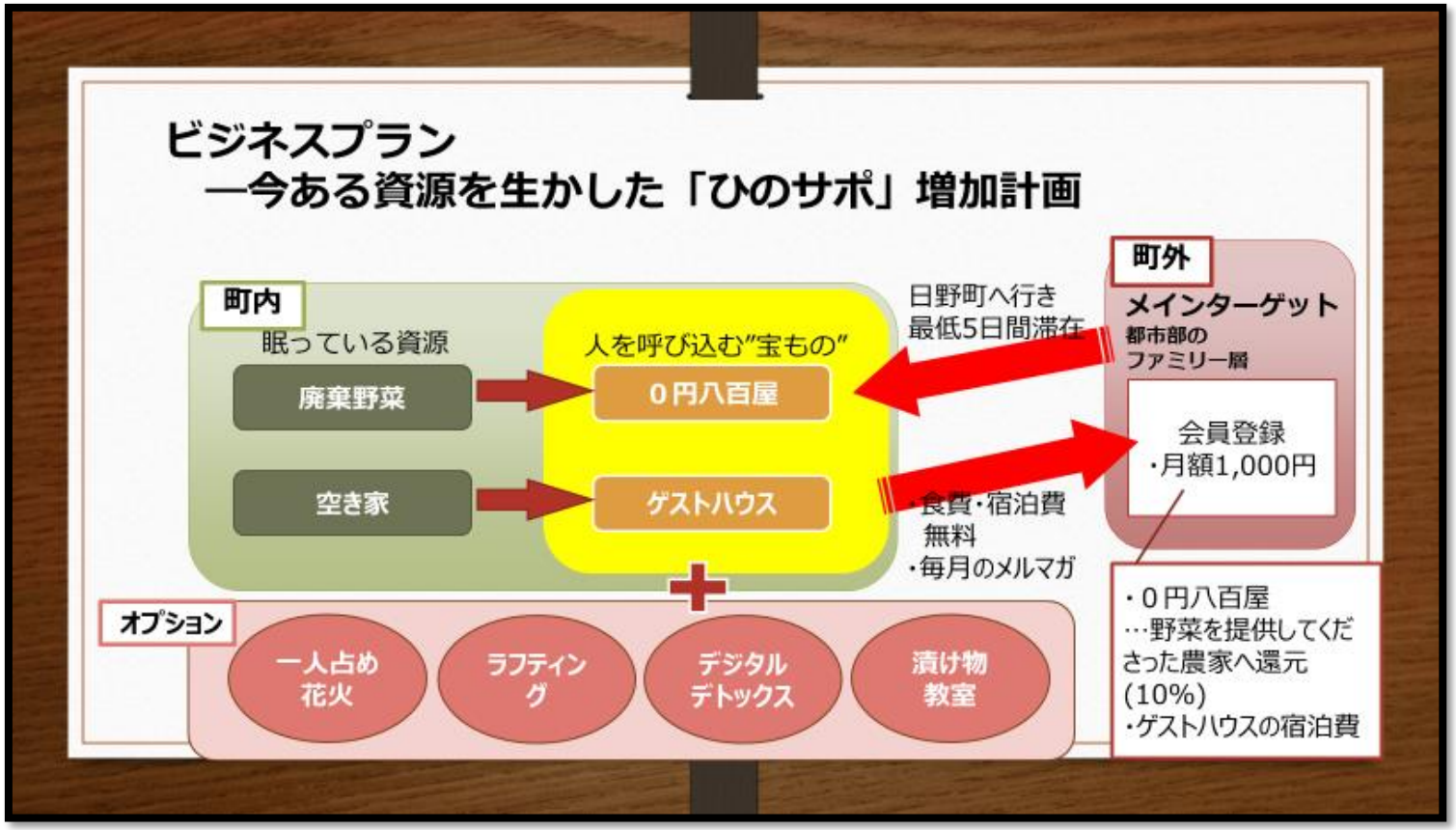
- 町の宣伝ツール（SNS）の改善
- 金持神社の商品PR策

金持神社の商品のPR

- 黄色いハンカチ：人気商品なので少数で県外に出す
- ぼたもち：黄色いハンカチで知ってもらった上でぼたもちを限定商品として押して来てもらう
- 金持扇子：お土産として手ごろなサイズ

生活チーム

「日野町を応援する人＝ひのサポ」として、新たな仕組みを作り、
町外のファミリー層を日野に呼び込むビジネスプラン。
廃棄野菜や空き家を「人を呼び込む宝物」に変える。



観光チーム

日野町の自然の豊かさを活かした、四季折々のサイクリングツアーを提案。

日野町サイクリングプラン

- 設置場所：根雨駅、上菅駅、黒坂駅
- 上記3つの駅であれば乗り降り自由（どこでも返却OK！）
- 自転車の種類：マウンテンバイク。普通の自転車。
- 自転車には必ずカゴとペットボトルホルダーを取り付ける。
- 金額設定（利用者の予算）：一回300円から500円程度

～春Ver～

自転車で滝山公園へ
↓
龍王滝、つつじ、桜鑑賞
↓
金持神社へ
↓
翌日、ラフティング

～夏Ver～

自転車で金持神社
↓
夜には姫蛍鑑賞
↓
翌日、ラフティング

ローカルメディアで取り上げられました

★日本海新聞(8月29日付)　※右画像
http://www.nnn.co.jp/news/170829/20170829049.html
★中海テレビ(8月25日放送)
https://www.facebook.com/ChukaiTV/videos/1463742407050648/
★NHK　鳥取放送局(8月22日放送)　※下画像

（第３種郵便物認可）

地域活性化の研究結果を発表する学生ら

都市部の若者がホームステイ

日野のまちづくり研究

サイクリングツアーなど提言

日野町内でホームステイをしながら町の長所や課題などを研究していた東京の学生ら12人が25日、同町根雨の山村開発センターで、研究発表会を開いた。学生は滞在中の経験や取材などを通して課題をまとめ、地域活性化につながるSNSによる情報発信やサイクリングツアーなどを提言した。

都市部の若者の視点をまちづくりに役立て、中山間地域の体験を学業に生かしてもらおうと、日野町地域おこし協力隊の中山法貴さん(40)が企画。昨年から実施しており、ヒマワリ迷路などの提言は今年実現した。

東京富士大を中心に鳥根大の学生ら計12人が参加。21日から5日間、農作業体験や地元住民との交流会、取材など、学生たちは産業、観光、生活の3グループに分かれて研究活動を繰り広げた。

発表会では「各SNSの特徴を捉えた発信が有効で、スマホを意識したレイアウト変更も必要」「1泊2日のサイクリングツアーで町内の観光ポイントを回り、町に興味を持ってもらう」などの提言があった。

東京富士大3年の三上山京さん(20)は「自然が豊かで重要な資源だと感じ、廃棄されている野菜について研究した。じっくり『まち』を見て考える初めての経験だった」と振り返った。（高塚直人）

4. 本年プロジェクトレビュー

●虫の目（現場で起きている事象を把握する）

人口減への漠然とした危機感、小さな活動の芽

【生活】
・若い人は米子市などへ転出、または米子市で働くため日中は地域におらず交流も少ない。
・高齢者同士が気軽に集まるカフェはボランティアでスタート。憩いの場になっている。
・畑を譲ってもいいという高齢者もいるが、それでも後継者がいない。
・規格外の野菜を加工する場が限られ、売れない野菜は廃棄されている。

【観光・交流】
・観光スポットや町の拠点が点在しており、線でつながっていない。宿泊場所も町内に2カ所だけ。
・せっかく町に来ても滞在時間が短い。
・地域おこし協力隊がヨガ合宿所を計画中。

学生の気づき・成長

・人のつながりの強さ、人の温かさ、自然の豊かさ、野菜・空気のおいしさを魅力として挙げる学生が多かった。
・東京生まれ東京育ちで、他の“田舎”を知らない学生も多く、類似地域との差別化の提案は難しかった。まずは“田舎”の存在を知ることができた。
・コミュニケーションが苦手な学生が、次第に自分から話すようになった。

4. 本年プロジェクトレビュー

●鳥の目（全体を捉える視野）

・魅力も課題も他の過疎地域と類似。他の地域にはない
「日野町ならでは（ブランド）」を確立できていない。

・町内で活動している人たちをネットワーク化できていない。
既存の地域資源を活用して、
新たな産業を考える人材・おこす人材・つなぐ人材が必要。

●魚の目（トレンドや世の中の流れをつかむ）

～「人口」の前に、「関係人口」を増やすことを考える～

・「地方創生、二地域居住、テレワーク、ノマド、移住女子…」
×「空き家増加、農林業後継者不足、伝統文化・芸能の衰退…」

4. 今後の動きと展望

(1)日野町への提案

・本年の「日野町魅力化プロジェクト」で出てきた学生からの提案も踏まえながら、JRIとしての企画を町へご提案する

・今回の参加学生を「関係人口」としていくために、継続的なつながりを作っていく

(2)他地域への展開

・本プロジェクトの価値をより明確にして、報告書を公表する

※町(行政・住民等)にとっての意義、学生にとっての意義、JRIが関わることの意義　等